

A. 主な動き

1. 内政

大統領選挙に向けた動き

・25日、与党連合「欧州統合のための同盟」(A EI)は、大統領選挙に向けた協議に共産党を招請する旨の声明を发出。

・26日、ポストイコ共産党議員は、共産党は大統領選挙に向けた協議へのA EIの招請に応じる旨発表、まずは民主党との協議を開始する予定である旨発言。

与党連合「欧州統合のための同盟」(A EI)の動き

・21日、フィラト首相(自由民主党党首)は、首相のポストに留まることが最優先であるとし、同日時点における大統領選挙への出馬の可能性を否定。

・22日、ギンプ自由党党首は、大統領候補はA EI全体で擁立すべきである一方、大統領選出に成功する可能性は少なく期限前議会選挙は不可避であろう旨発言。

・24日、ディアコフ民主党名誉党首は、モルドバにとって大統領選出は最優先課題であるとし、A EIは如何なる大統領候補にも賛成すべきである旨発言。

・25日、フィラト首相は、11月18日の大統領選挙以降に閣僚交代の可能性を検討する意向である旨発言。

議会の動き

・28日、議会は、共産党及び民主党議員の賛成をもって、レセトニコフ共産党議員(元情報・安全保障庁長官)を議会副議長に選出。

・28日、ズブコ検事総長は、銀行の敵対的買収に関する事実関係を議会に報告、同事案において検事総長が適切な処置を怠った旨のフィラト首相の指摘を否定。

2. 経済

マクロ経済

・26日、ラザル副首相兼経済相は、モルドバの2011年GDP成長率見通しを従来の6.0%から6.5%に引き上げた旨発表。

IMF

・24日、IMFミッションは、モルドバを訪問(滞在期間は2週間)。モルドバ政府、中央銀行等とモルドバの経済情勢・政策等について協議予定。

3. 外政

▼27日、モルドバ露政務協議

・27日、キシナウにおいて、モルドバ露外務次官級による政務協議が実施、両国関係、経済・人道分野における協力関係、及び沿ドニエストル問題に関し協議。本協議は、11月22日に予定されているラブロフ露外相の訪問を見据えて実施されたもの。

その他

・26日、フィラト首相は、モルドバ・EU共通航空域協定発効式典に参加。

4. 沿ドニエストル

共同管理委員会(JCC)

・24日、共同管理委員会(JCC)においてモルドバ代表団は、沿ドニエストルは、平和維持軍の同意もなく同委員会決定や1992年の停戦協定に反し、違法に2カ所の税関及び入国管理事務所を設置したと抗議し即時撤去を求めた。

対露関係

・25日、フィラト首相は、来年のロシア連邦議会選挙の投票所を沿ドニエストル域内に設置するとのロシア側の要求を認めない旨発言。

・27日、カラシン露外務次官は、キシナウで実施されたモルドバ露政務協議で、沿ドニエストル問題は、モルドバの領土一体性と主権を考慮して解決されるべきものとのロシアの公式見解を繰り返し発言。

その他

・26日、スミルノフ「大統領」は、冬時間を廃止する旨の11日付「大統領令」を無効とする「大統領令」を发出。同「大統領令」に基づき、例年通り10月の最終日曜日より冬時間への移行が実施された。

・26日、沿ドニエストル「中央選挙管理委員会」は、カミンスキー「最高会議議長」の沿ドニエストル「大統領」選挙出馬を正式に登録。

5. 防衛

武器輸出

・26日、アゼルバイジャン報道機関は、フィラト首相がアルメニアへの武器輸出に関しアリエフ・アゼルバイジャン首相に対し謝罪していた旨報道。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。(了)